

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-139	16-301	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
Differential Effect of Initiating Moderate Red Wine Consumption on 24-h Blood Pressure by Alcohol Dehydrogenase Genotypes: Randomized Trial in Type 2 Diabetes. 適度な赤ワイン摂取を開始することが 24 時間血圧に及ぼす影響;アルコール脱水素酵素遺伝子型による効果の相違:2 型糖尿病の無作為試験。		
執筆者		
Gepner Y1, Henkin Y2, Schwarzfuchs D3, Golan R1, Durst R4, Shelef I2, Harman-Boehm I2, Spitzen S4, Witkow S1, Novack L1, Friger M1, Tangi-Rosental O1, Sefarty D1, Bril N1, Rein M1, Cohen N1, Chassidim Y2, Sarusi B3, Wolak T2, Stampfer MJ5, Rudich A1, Shai I6.		
掲載誌		
Am J Hypertens. 2016 Apr;29(4):476-83.		
キーワード		PMID:
血圧、アルコール脱水素酵素、2 型糖尿病、ワイン		26232779
要旨		
<p>目的: 観察研究により、適度なアルコール摂取と血圧(BP)の間の矛盾している関係が報告されている。大規模な無作為対照臨床試験のサブスタディにより、2 型糖尿病患者の間で適度な赤ワイン摂取を開始することが 24 時間血圧に及ぼす影響とアルコール脱水素酵素(ADH)の一般の遺伝子の異型の効果を評価した。</p> <p>方法 54 人の 2 型糖尿病患者において、アルコール禁酒家は夕食時に 150ml のドライな赤ワインまたはミネラル水を消費するためにランダム化された。両群は、カロリー制限なしで、地中海料理をなるべくとるようにガイドされた。試験開始時と 6 ヶ月後に 24 時間の自由行動下血圧測定(ABPM)を測定した。</p> <p>結果 参加者(年齢=57 歳; 85%の男性; 平均 24 時間血圧= 129/77mm Hg)は 92%が 6 ヶ月間継続した。6 ヶ月の介入後、平均的 24 時間血圧は、ワイン群とミネラル水群の間に相違はなかった。BP の一過性の減少は、真夜中に赤ワイン群で観察された(ワインの摂取後の 3-4 時間:収縮期圧:赤ワイン=-10.6mm Hg 対 ミネラルウォーター= +2.3 mm Hg; P = 0.031)、そして、翌朝の午前 7-9 時は(赤ワイン:-6.2mm Hg 対 ミネラルウォーター:+5.6mm Hg; P = 0.014)。 赤ワイン消費者の間の第 2 の事後の下位分析で、ADH1B*2 異型をコード化している遺伝子のためにホモ接合だった個人(Arg48His;rs1229984, TT、速いエタノール分解者)は、ADH1B*1 異型(CC、緩徐性 metabolizers)のためにホモ接合異種接合体とそれらと比較して、平均 24 時間の収縮期圧の減少を示した(-8.0mm Hg 対+3.7 mm Hg; P = 0.002)、そして、脈圧も減少した(-3.8mm Hg 対+1.2 mm Hg; P = 0.032)。</p> <p>結論: 2 型糖尿病患者の間で夕食時に適度な赤ワイン摂取を開始することは、平均 24 時間の血圧に識別可能な影響を及ぼさない。しかし、中等度の一過性の BP の減少は記録された。そして、より顕著な血圧を低くする効果は、速いエタノール分解者の間で示唆された。</p>		